

平成30年度「歯・口の健康づくり推進計画」について

1 事業の実績

①当該年度における事業実施日程

実施時期	実施内容	備考
7月10日(火)	第1回沖縄県連絡協議会(課題解決計画の検討)	出席者10名
7月19日(木)	第1回地域検討委員会の開催	学校・家庭・地域の代表者15名
7月26日(木)	小中合同歯科講話の実施	小中職員、部活動コーチ等(約40名)
12月20日(木)	第2回地域検討委員会の開催	出席者11名
1月25日(金)	第2回沖縄県連絡協議会(課題解決支援事業の検証)	出席者8名
	事業報告を本課ホームページに掲載	

②協議会の構成員

<p>沖縄県連絡協議会 全体で13人(内訳:医師1人、歯科医師1人、県保健医療部1人、市教委1人、市保健所1人、PTA代表1人、校長2人、養護教諭2人、県教委3人)</p>

③課題解決計画の具体的内容

1 現状と課題

(1) 児童生徒のむし歯被患率は、経年的にみると減少傾向にあるが、全国と差がある。また、12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯等数は、全国最下位である。(図1、図2)

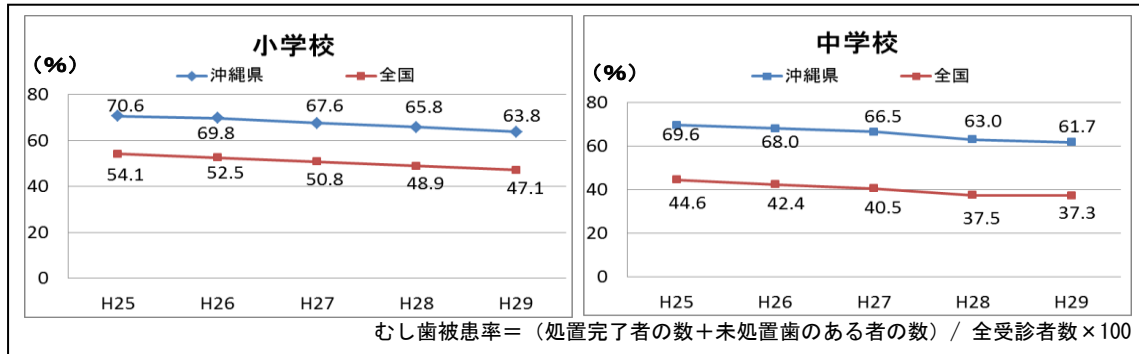


図1 むし歯被患率 平成29年度学校保健統計調査より

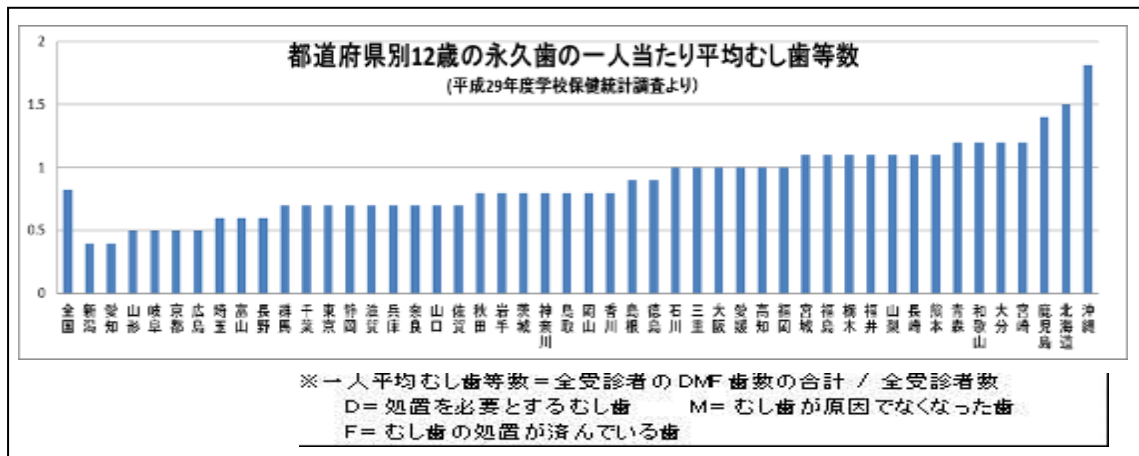


図2 都道府県別永久歯の一人平均むし歯等数

平成29年度学校保健統計調査より

(2) 児童生徒の歯垢の状態が「相当の付着があると判定された者」、歯肉の状態が「専門医による診断が必要と判断された者」の割合は、全国より高い。(図3、図4)

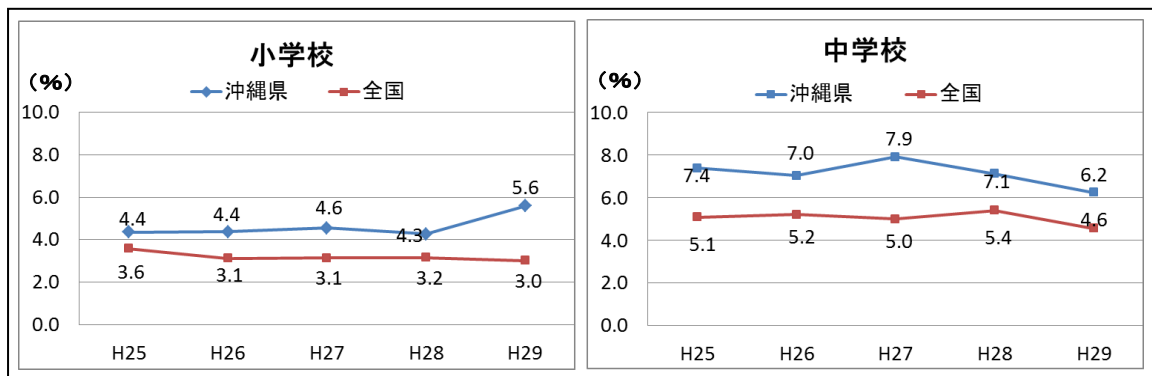


図3 歯垢の状態：相当の付着があると判定された者の割合

平成29年度学校保健統計調査より

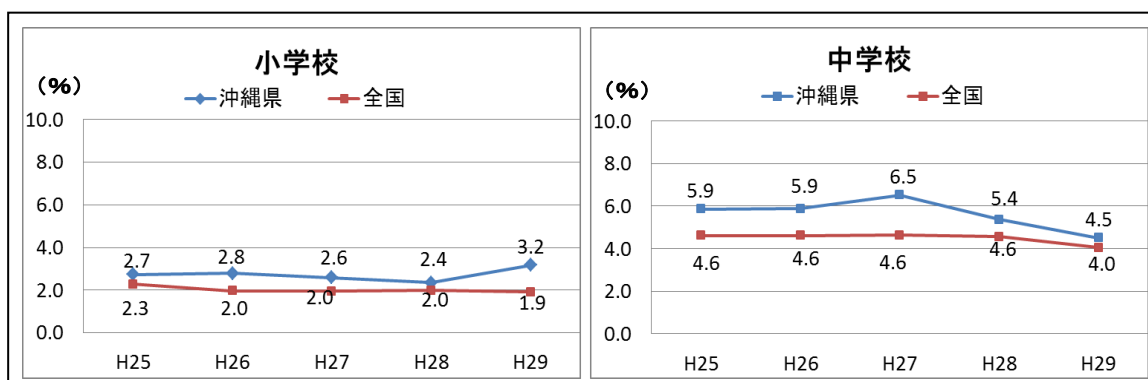


図4 歯肉の状態：専門医による診断が必要と判定された者の割合

平成29年度学校保健統計調査より

(4) 定期健康診断後に、むし歯で受診を勧奨された児童生徒のうち、受診した児童生徒の割合は、小学校29.2%、中学校19.7%で、中学校は低い状況である。(図5)

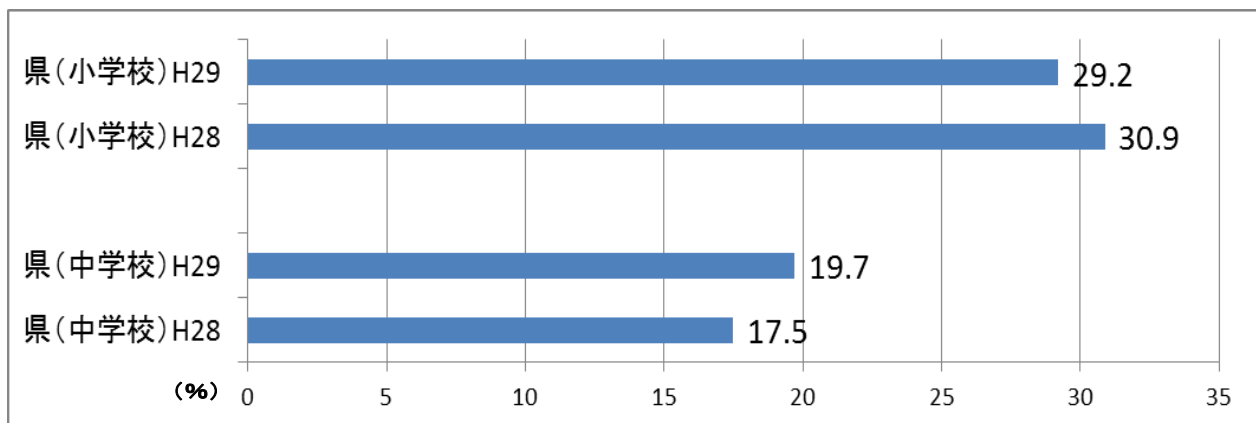


図5 むし歯により受診した児童生徒の割合

平成28・29年度児童生徒の健康診断事後措置に係る受診状況調査より(県教育委員会)より

2 目標

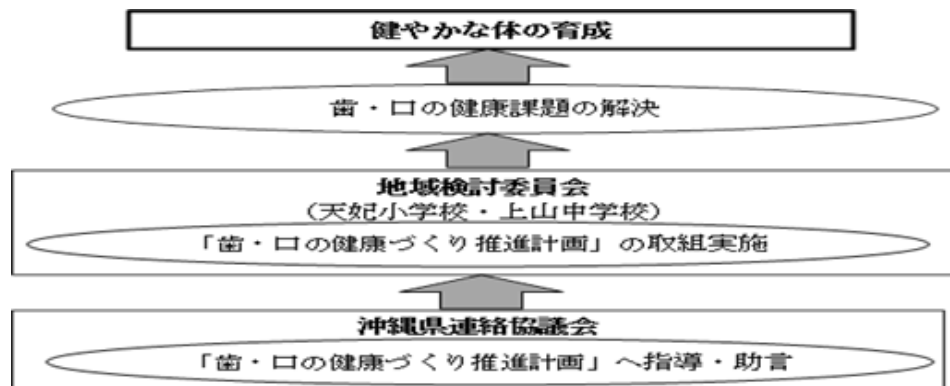
- (1) 学校、家庭、保健所等の地域関係者が連携した地域検討委員会（学校保健委員会）による児童生徒の課題解決にむけた活動を促進し、歯・口の健康づくりに資する。
- (2) 児童生徒におけるむし歯被患率の減少。
- (3) 定期健康診断後に、むし歯で受診を勧奨された児童生徒のうち、受診する児童生徒の割合の増加。
- (4) 歯垢の状態が「相当の付着があると判定された者」、歯肉の状態が「専門医による診断が必要と判定された者」の割合の減少。

3 主な取組

- (1) 学校保健委員会を活用した地域検討委員会を設置し、小学校と中学校、家庭、保健所等の地域関係者が緊密な連携を図り、むし歯や歯周疾患の予防に向けた取り組みをする。
- (2) 定期健康診断の結果、受診が必要な児童生徒に受診勧奨を行うとともに、学校と学校歯科医が連携した事後措置を行う。
- (3) 学校と学校歯科医等が連携し、歯・口の健康づくりについて、発達の段階に応じた適切な指導や管理ができるよう取り組むことで、児童生徒の「健やかな体の育成」を図る。

4 体制

本計画は、医師、歯科医師等の専門家、校長、養護教諭などの学校関係者、PTA、保健医療部等の関係機関の代表者で構成する「沖縄県連絡協議会」から指導助言を受け作成する。本計画を基に、那覇市立天妃小学校及び上山中学校において、「地域検討委員会」を設置し、「歯・口の健康づくり」をテーマに取組を実施する。



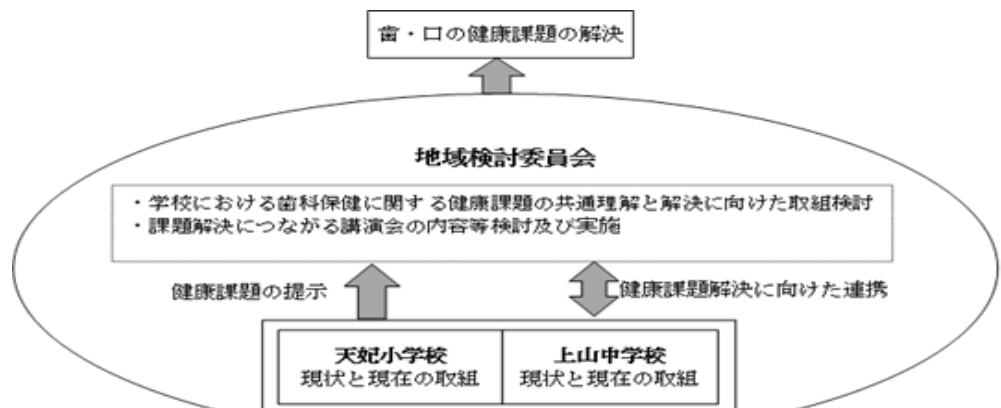
④課題解決に向けた取組

(ア)「地域検討委員会」等の設置

1 地域検討委員会の構成員

全体16人（医師2人、歯科医師2人、薬剤師2人、市教委1人、市保健所1人、PTA代表2人、校長2人、養護教諭2人、県教委2人）

2 体制



(イ) 具体的な取組

実施月日	実施事項
7月19日	<p>【小・中学校】地域検討委員会 (参加者：委員13名、事務局2名) 中学校において地域検討委員会を開催し、本県及び両校の歯・口の健康課題を共有し、解決に向けた手立てについて検討を行った。</p> 
7月26日	<p>【小・中学校】歯科講話(参加者：小中職員、部活動外部コーチ等 約40名) 中学校地域連携室において、両校職員及び部活動外部コーチ等を対象に、ライオン歯科衛生研究所の歯科衛生士、小学校の学校歯科医及び市保健所歯科医師による歯科講話を行い、児童生徒の現状を伝え、歯・口の健康づくりについて学んだ。</p> 
9月19日	<p>【中学校・保健所】フッ化物洗口導入に向けた保護者説明会 フッ化物洗口を実施している小学校の学校歯科医と保健所歯科医師の協力を得て、フッ化物洗口を導入するための職員研修と保護者説明会を実施した。</p>
10月～2月	<p>【小学校・保健所】6歳臼歯に関する指導教材の作成 就学時健康診断や低学年の歯科保健教育に活用できる教材(ワークシート)を学校(学校歯科医、養護教諭)と保健所(歯科医師、歯科衛生士)で協力して作成した。教材は次年度から市内の小中学校へ配布して活用を促す予定である。</p> 
11月20日	<p>【小・中学校】小中合同保健便り「ハッピー通信」の発行 両校の歯科検診の結果や歯科講話内容を掲載した保健便り「ハッピー通信」を作成し、児童生徒及びPTAへ情報を発信した。</p> 
12月20日	<p>【小・中学校】地域検討委員会(参加者：委員10名、事務局1名) 中学校において地域検討委員会を開催し、各学校における取組や連携して実施した活動について報告を行い、成果と課題等を共有し、次年度に向けた手立てについて検討を行った。</p>

⑤取組における成果

1 地域検討委員会で得られた意見等を参考に、歯・口の健康づくりの活動ができた。

特に本県中学校における給食後の歯みがきの時間を、週時程に位置付けて年間を通して実施している学校は、全体の5割に満たない状況であるが、上山中学校においては、給食後の歯みがきの時間を新たに週時程に位置付け、年間を通して実施できた。

また、フッ化物洗口導入に向けた取り組みを開始することもできた。（その他、取組内容については、事業実績及び具体的な取組を参照）

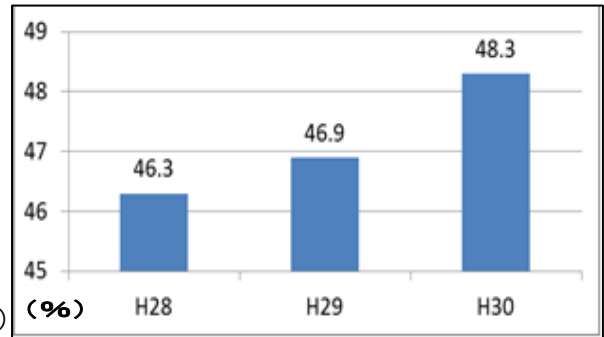


図1 本県中学校において給食後の歯みがきを週時程に位置付けて実施している学校の割合

2 天妃小学校において、昨年度と比較して、むし歯被患率が4.9ポイント、歯垢の状態（相当の付着があると判定された者の割合）が2.6ポイント減少した。

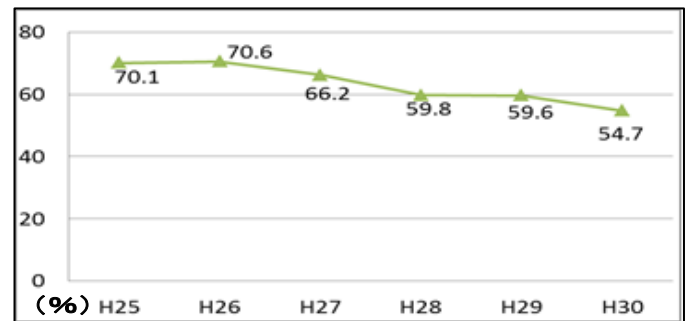


図2 むし歯被患率（天妃小学校）

⑥今後の課題

1 上山中学校においては、むし歯被患率、歯垢の状態（相当の付着があると判定された者）及び歯肉の状態（専門家による診断が必要とされた者）の減少を目指した取り組み（学校歯科医による保健指導や、フッ化物洗口の導入等）が必要である。

2 小学校においては、歯肉の状態（専門家による診断が必要とされた者）の割合の減少を目指し、歯肉炎に関する指導を加える必要がある。

3 むし歯で受診を勧奨された児童生徒のうち、受診した児童生徒の割合は、昨年度と比較して天妃小学校は増え、上山中は減っていた。いずれにしても、両校ともに受診率が高いことから、今後は両校において未受診理由を把握するとともに、未受診者に対し、学校、家庭、地域が連携して受診を促す取組が必要である。また、天妃小学校においては、多数のむし歯を持つ児童への対策もあわせて必要である。

(1) 天妃小学校

年度	H26	H27	H28	H29	H30
受診を勧奨した者（人）	140	185	156	164	135
受診した者（人）	13	20	22	43	44
受診率（%）	9.2	10.8	14.1	26.2	32.6

(2) 上山中学校

年度	H26	H27	H28	H29	H30
受診を勧奨した者（人）	110	112	65	59	102
受診した者（人）	4	11	17	21	27
受診率（%）	3.6	9.8	26.1	35.6	26.5